



ひとくち映画情報

『パンケーキを毒見する』

内山雄人 監督

(C)2021『パンケーキを毒見する』
見すけ制作委員会

就任するや否や國民に自助を迫り、未曾有のコロナ禍の中で「安心安全」を唱えて五輪強行へひた走り、学術会議任命拒否問題で異論を排除、国会では空虚な答弁の繰り返し——。そんな菅義偉首相の素顔に迫るドキュメンタリーです。

大ヒットした映画「新聞記者」などを手掛けた制作会社スター・サンズが元官僚、ジャーナリストなどが菅首相の人物像を語り尽くし、これまでの

政治の実像を浮き彫りにする作品。解散・総選挙を前に見ない手はありません。7月30日から全国公開。

ネジの多さに
歴史を感じる

訃報

対策部長

吉田 茂さん

■百木 重雄さん

6月18日死去 享年91

(東尾久1・タイル)

○1974年6月1日

44歳で加入

○84年 執行委員

○2002年～06年 分
会書記長(執行委員)
○08年～20年 分会税金

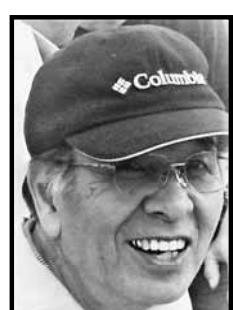
■吉田 茂さん

6月26日死去 享年76

(東尾久1・大工)

○1962年1月1日

16歳で加入

○83年～2020年 分
会財政部長お一人のご冥福をお祈り
申し上げます。

機械工具商

創業73年「渡辺商店」を訪ねて
多様な特殊ネジ 要望に応えてきた

「平成」から「令和」に元号が変わり、平成は30年と数ヶ月ありました。そして、平成の前は「昭和」で昭和はおよそ63年間という長い時代でした。その昭和から令和の96年あまりで、荒川区の製造業は大きく変化してきました。戦後復興がようやく本格化して来た昭和23年に、物作り製造業の中核企業が多い荒川区で、機械工具商の渡辺商店は創業を開始しました。創業者は渡辺善三郎さん(90歳没)。現在の代表者二代目の渡辺敏夫さんに渡辺商店の歴史と荒川区製造業の変化とこれからの方々性をおたずねしました。取材者 堀井一記者・川又好一記者||日暮里1分会

す。

お聞きすると当時として
は各会社で自社マークを入

らしく菱形の中に「渡辺善
三郎」のZWのローマ字を
入れたと聞き、敗戦の苦い

思いの中でローマ字を使う
ことは、製造業の方々に必要
な工具やネジを供給する店

れていたそうです。日本人
は各会社で自社マークを入

り、今までの金物屋さん工
具屋さんの商売が難しくな
っています。

日本全国の金物屋さん工
具屋さんが、ネジを大阪に
発注するわけですが、メー
リーランドでネジを作るため
に、一軒一軒の金物屋さん
工具屋さんからの個別注文
に対応する事は出来ませ
ん。そこで、多種多様なネ
ジに対して、それぞれの分
野を専門とする問屋が、メ
トカーカーからトン単位でネジ
を仕入れて在庫として持
ち、渡辺商店のような日本
全国の金物屋さん工具屋さ
んへ、それぞれ必要数量だ
け販売する、という形態が
出来上がり、創業者は種類
の多さと特殊ネジまで在庫
して、御客様の依頼に応え
ていた、と話してくれまし
た。

二代目の渡辺商店さんの
努力をして、昭和の物作り
では日本製は信頼置けると
なりました。工場から求め
られる製品作りに、金物屋
や工具屋さんが情報をメー
リーランドに伝え、よりよい製品
作りに協力をしていた事を
聞きました。

ス。

戦前、渡辺善三郎さんは新潟県西蒲原郡弥彦村から、港区麻布で工具店を経営している叔父さんの会社に住み込みで勤めて、仕事を見ていました。創業者の渡辺善三郎さんは独立開業は終戦後、昭和

23年でした。戦後の混乱の中で復旧物資を探し、機械工具の販売経験を足場として「機械工具一式・ネジ各種渡辺商店」として、スタッフしました。入り口に菱形の中にZWの文字入りマテークの店名看板がありま

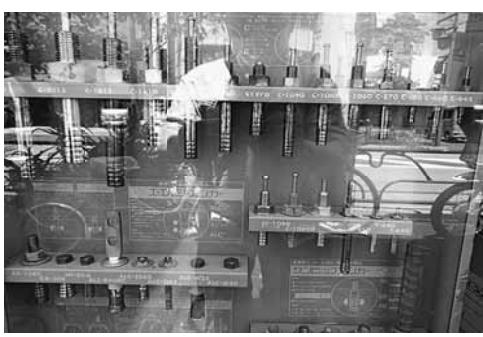
現在代表を勤める
二代目の渡辺敏夫さん

として、希望を願う流行の先端であると思いました。
荒川区は隣の北区から、製造業で物作りの業者の方々が、工具やネジを買いに来て、特に渡辺商店はネジに力を入れ、あらゆる特殊ネジまで取り寄せていました。

工具類も豊富だ

世界では安いが製品は粗雑と言っていた。その後、努力をして、昭和の物作りでは日本製は信頼置けるようになりました。工場から求められる製品作りに、金物屋や工具屋さんが情報をメー

リーランドに伝え、よりよい製品作りに協力をしていた事を聞きました。



ただ、戦後の復興は予想以上の急進展を見せました。1950年勃発の朝鮮戦争でアメリカ軍から日本国内の各種企業に対する発注が急増した。この受注によって輸出が伸び、日本経済は戦後の不況から脱することが出来た。東京の製造業は注文に追われ工具部品ネジなどが売れたそうですね。

平成に入ると町工場の建物も古くなり、土地の値段が上がり、その工場を売却して地方に広く設備を新しくした工場が移転していました。昭和の物作りが平成になって、安い労働賃金の国に仕事を奪われる事態も発生。何とか努力を積

み重ね生き残り、別の物
りに挑戦をするなど、ます
ます努力が続く製造業。し
かし、日本の物作りの工場
も変わり継続できない事情
も発生。町工場の数も三分
の一になってしまいまし
た。

戦後、日本の物作りは、

世界では安いが製品は粗雑

と言っていた。その後、

努力をして、昭和の物作りでは日本製は信頼置けると
なりました。工場から求め
られる製品作りに、金物屋
や工具屋さんが情報をメー
リーランドに伝え、よりよい製品
作りに協力をしていた事を
聞きました。